

令和5年度自己評価報告書

1. 教育理念

建学の精神「人間是宝」～人は生きた資本であり、資産なり～の下、校訓「徳・技・知」の教育を実践する。教育理念は、次の通りとする。「人は誰でも努力と勉強次第で進歩向上するものであることを自覚させ、常に目標に向かって自己の可能性を試し、人としてより遅しく成長発展を目指し、観察力と創造的思考力の増進を図る。」

2. 教育方針

学科・実習のすべてに全力を集中し、時間を有効に使い、無駄の無い生活をし、自己の最大の能力を開発する。

- (1) 人間はこの世の中に奉仕されるために生まれたのではなく、奉仕するために生まれたものであることを自覚し、自己の能力から創造の世界を発展させ、社会に役立つ仕事をするからこそ奉仕の生活にある。
- (2) この世の仕事は、アイデア次第でいくらかでも進歩発展する。日々創意を新たにし、工夫して生活の充実発展を図る知能を養う。

3. 重点目標

- (1) 募集定員の確保
- (2) 整備士資格取得率100%
- (3) 就職率100%

4. 評価方法

< A. 適切 B. ほぼ適切 C. やや不適切 D. 不適切 >

5. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目的・育成人材像

評価項目	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	A
学校における職業教育の特色があるか	A
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	A

<課題>

- ・特になし。

<今後の改善方策>

- ・特になし。

(2) 学校運営

評価項目	評価
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	A
人事・給与に関する規程等は整備されているか	A
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B

〈課題〉「情報システム化等による業務の効率化」

- ・ICTを活用した授業展開及び業務改善のため、職員間、学校と学生間の連絡ツールを見直す必要がある。また、前年度から導入した「教務システム」を令和7年度生から移行できるように準備を進める。

〈今後の改善方策〉

- ・新たにWhatsApp、Google Classroomの導入を検討する。
- ・「教務システム」に対応するため、学籍・成績・評価に係る教務内規の見直しを図る。また、「教務システム」の運用について全職員で理解し、令和7年度入学生からの完全移行を目指す。

(3) 教育活動

評価項目	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての就業年限に対応した教育到達レベルや、学習時間の確保は明確にされているか	A
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや、教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	B
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置付けられているか	A
授業評価の実施・評価体制はあるか	B
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	A
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	B
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	B
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	A
職員の能力開発のための研修等が行われているか	B

〈課題①〉「企業連携によるカリキュラムの見直し」

- ・職業実践専門課程の事業を活用し、企業等と連携した特別授業を展開している。しかし、その成果を普段の授業内容に加味することはできても、既存のカリキュラムを改善するまでには至っていない。

〈今後の改善方策〉

- ・令和7年度教育課程改定に伴い、本校の特色を生かしたカリキュラムを検討する。

〈課題②〉「授業評価」

- ・毎年、学生に「学校評価アンケート」を実施し、その中で総合的な授業評価は行っている。また、一部の教員は、個別に授業評価を実施している。

〈今後の改善方策〉

- ・教員全体で授業評価を実施するようにする。

〈課題③〉「要件を備えた教員の確保」

- ・整備士資格制度の変更により一級課程の学生が増加することが見込まれるので、教員の一级資格保有者をさらに確保していく必要がある。

〈今後の改善方策〉

- ・啓発や研修等により教職員の一級資格取得を推進する。

〈課題④〉「教員の提供先の確保」

- ・自動車業界自体が人材不足を抱えているため、教員の提供先の確保は難しい状況である。

〈今後の改善方策〉

- ・教員確保のため、長期の人材派遣が可能な企業を開拓する。

〈課題⑤〉「能力開発のための研修」

- ・JAMCA 研修等の個別研修はあるが、全体で職員研修会を実施する機会は少ない。

〈今後の改善方策〉

- ・自動車技術、学生指導、授業改善、ICT、ハラスメント、人権教育など、職員会議等を効率的に活用しながら全体研修を実施する。

(4) 学習成果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	A
資格取得率の向上が図られているか	A
退学率の低減が図られているか	B
卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	A
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	A

〈課題〉「退学率の低減」

- ・退学者を極力0にしていくことが課題である。

〈今後の改善方策〉

- ・退学者低減のために学生情報を教員間で共有し、家庭や関係機関と連携して学生指導を進める。
- ・来年度からスクールカウンセラーを配置する。

(5) 学生支援

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A
学生相談に関する体制は整備されているか	A
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	A
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	A
課外活動に対する支援体制は整備されているか	A
学生の生活環境への支援は行われているか	A
保護者と適切に連携しているか	A
卒業生への支援体制はあるか	A

〈課題〉

- ・特になし。

〈今後の改善方策〉

- ・特になし。

(6) 教育環境

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	A
防災に対する体制は整備されているか	A

〈課題〉

- ・特になし。

〈今後の改善方策〉

- ・特になし。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	A
学生募集活動は、適正に行われているか	B
学生募集活動において、資格取得・進学または就職状況等の情報は正確に伝えられているか	A

〈課題〉

- ・18歳人口の減少が進み、若者の車離れも拍車をかける中、学生募集はますます厳しくなることが予想される。

〈今後の改善方策〉

- ・自動車の魅力や自動車整備士に対する理解を促進するため、埼玉大祭オートジャンボリー、伊奈町教育委員会開放講座、高校との連携事業等を積極的に進める。

(8) 財務

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	B
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
財務について会計監査が適正に行われているか	A
財務情報公開の体制整備はできているか	A

〈課題〉

- ・学生確保が難しい状況が続いている。安定した財政基盤を維持するためには、定員確保が必須である。

〈今後の改善方策〉

- ・長期的な視点で設備投資、教職員の人材確保を進め、学校規模に応じた学校運営で持続可能な経営を目指す。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか	A
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A
自己評価結果を公開しているか	A

〈課題〉

- ・特になし

〈今後の改善方策〉

- ・特になし